

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200852		
法人名	株式会社ライフサポート		
事業所名	ライフサポート鎌田		
所在地	静岡県静岡市駿河区鎌田121-1		
自己評価作成日	令和3年 1 月 5 日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和3年 3 月 1 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

株式会社ライフサポート全体の特徴として、静岡の市街地、住宅地に施設を建てています。その目的として、入居者家族が通いやすく、気軽に立ち寄れる施設づくりを目指しています。馴染みのある街並みの中にある環境整備の中で、緑を促進し、畑を用意することで、花や自家製の野菜を作る楽しみと、食べる楽しみの両方を目指しています。市街地にあるため、気軽にお出掛けできる様にしたり、広いスペースを活かしたレクリエーションを積極的に促進していきます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念「ずっと、あなたらしく ずっと、快適な毎日を 安心と安らぎを創る」と、事業所の理念を事務室と職員室に掲示している。新入職員研修時に説明し、職員会議で確認し共有に努めるほか、日々の介護の中でも理念に沿った介護をするよう、管理者は職員に説明している。管理者、ケアマネジャーは息の合った協力関係にあり、職員間の意思疎通が良く、利用者が快適で安らぎのある日々を過ごせるよう努力している。利用者全員が2つの協力医のいずれかを主治医とし、月2回の訪問診療を受けている。協力医は24時間対応で、緊急時は電話や往診で対応するなど良好な医療連携体制が出来ている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、職員室に理念を張り出し、また、新人研修時に研修を行う事で理念を共有し実践につなげられるようになった。	法人の理念「ずっと、あなたらしく ずっと、快適な毎日を 安心と安らぎを創る」と事業所の理念を事務室と職員室に掲示している。新入職員研修時に説明し、職員会議で確認と共有に努めるほか、日々の介護の中でも理念に沿った介護をするよう職員に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により昨年度は外部との接触はほぼ皆無でした。	自治会に加入して地域の祭りや清掃活動(年2回)に参加し、フラワーアレンジメント教授やフルート演奏のボランティアを受入れていた。事業所の秋祭りを開催し、家族や地域住民の参加があった。コロナ禍以降はこれらを中止している。	コロナ終息後に従来の地域交流を再開し、更なる地域交流の拡大や事業所防災訓練への地域住民の参加や地域防災組織との交流を進めることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響により昨年度は地域貢献できる活動は行えず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により昨年度は運営推進会議を1回しか行えず、その後は書面のみでの報告の為、これといったサービス向上に関わる事はない。	奇数月最終木曜日に定期開催し、自治会副会長、地域包括支援センター、家族(3~6人)が参加していた。事業所から報告し、参加者から意見や要望が出てサービス向上に活かしていた。コロナ禍以降は開催できず、報告を作成して地域包括支援センターにFAXし、家族には郵送している。	コロナ終息後は、従来の参加者に加え民生委員、地域住民、大家等の参加者拡大をはかり、運営推進会議の定期開催復活が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナに関わる事を市の担当者と連絡を取り合い対応したが、例年のように直接会っての協力関係を築くことができなかった。	運営推進会議議事録を地域包括支援センターにFAXしている。市介護保険課とはFAXや電話、メール等で随時連絡をとり、介護保険申請時等はケアマネジャーが訪問している。コロナ禍以降は中止しているが、市介護相談員を月1回受入れていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関するマニュアルを作成し、職員の拘束に関する知識の向上に努めている。 3か月に1回の拘束適正委員会や研修なども行っている。	身体拘束廃止委員会は3ヶ月に1回職員全員参加で開催し、研修を年2回開催している。法人作成のマニュアルを当事業所用に手直しを行い活用している。スピーチロックは特に注意しており、研修で説明し職員の理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で研修会を時折行い、会議時などに話し合い虐待防止に関する知識の向上、防止について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はいないが権利擁護センターや成年後見制度を活用していた入居者がいた為、会議時などに話し合い学ぶ機会を設けたが、新規の職員はまだ学ぶ機会が無い状態である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、内容について詳細に説明し契約を行っている。 署名時には趣旨を理解していることを確認してから行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で家族が施設に来ることが少なく、例年に比べて家族から意見が出る事が少なかった。 要望に合ったオンライン面会は早急に開始することができた。	コロナ禍前は家族の面会に柔軟に対応し18時以降も可能としていた。家族の半数は毎日を含め月1回以上の来訪があり、他の家族の多くも年数回の来訪があり、その機会に意見を聞き相談を受け、できるだけ運営に反映させてきた。コロナ禍以降は電話とオンライン面会で意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時などに意見提案がある場合協議し、反映していくようにしている。	毎月第3水曜日に開催する全員が出席する職員会議は、自由な雰囲気の中で多くの意見が活発に出ており、可能なものは運営に反映させている。賞与支給前に年2回職員面接を実施し、職員から意見や提案を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の介護度によって勤務時間の構成見直しを行った。給与水準の見直しを会社全体で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を会社で行い、外部研修にも参加できる働きかけをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年は地域事業所が集まり意見交換を行っていたが、昨年度はコロナの影響で行えず。オンラインで行う事を検討したが昨年は対応できなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時に当施設上での要望やふあんなどについて話を聞き、安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅ケアで出来ていたこと、できていないこと、やりたかったこと等色んなニーズを当施設の限られたハード内で可能な部分を取り入れるようにし、ご家族に安心を提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自宅で活用していた介護器具を施設内でも使用したいという要望に対応する為、福祉器具業者と契約し利用できる体制を整えた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話のできる入居者には会話をする機会をつくり、うまく会話できない入居者には表情や仕草などで関係性を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響により面会に制限、中止などをした為、直接的な接触を持ってない事が多かったが、オンライン面会などを取り入れる事で対応を行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で外部への外出はほぼできず。	馴染みの美容院を利用する利用者、友人や知人の訪問を受ける人、家族同伴で法事や墓参り、旅行や外食、帰宅等をする人、そして奥様の入院見舞いに出かける利用者等があり、それぞれの関係継続の支援をしていた。コロナ禍により、これらは現在に不可能になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく過ごせるよう、席替えなどを行い孤立しないよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事者が契約終了後も、親戚や近隣の方で相談されることも見られた。 以前入居されていた方が再度入居したいという話も出た。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者にあったケアが出来る様、職員で話し合ったり本人からの訴えを傾聴し、思いや意向の把握に努めている。	会話ができる利用者とは話し合いをよくして、その言葉を聞き、思いや意向を把握あるいは汲み取るようにしている。会話がしにくい利用者は、顔つきや表情から汲み取るようにしている。職員は思いや意向をなるべくお金をかけないで実現できるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などの資料の把握、インテーク時にはわからなかった部分も入居後に本人や家族に確認していく事を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調変化、身体状況について朝の申し送りで確認し、無理のないケアを務めている。また、日中の過ごし方など会議時に話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に関係者と話し合い介護計画を作成している。朝の申し送り時などにケアカンファを行い現状の把握と対策を考えている。	原則は短期6ヶ月で長期1年、状態変化時は随時見直しをしている。職員会議や朝の申し送り時に実施するカンファレンスで管理者、ケアマネジャー、職員に加え、可能な時は家族を含め話し合い、必要な時は主治医に状態確認を求めてから作成している。作成後に家族の了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に気づきや変化などを随時記録しており、職員間で情報共有できるようなノートを活用している。 記録から介護計画の見直しの骨組みを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多様化が進み、どのようなサービスの提供が望ましいか把握できていない部分がある。 その時々生まれるニーズに対応できる様調べながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で地域活動がなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が事業所の協力医をかかりつけ医としている為、健康状態について相談しやすい環境にある。	利用者全員が2つの協力医のいずれかを主治医とし、月2回の訪問診療を受けている。協力医は24時間対応で、緊急時は電話や往診で協力が得られる。また、訪問看護師の健康観察を週1回受けている。専門医受診は職員の送迎で家族同伴が原則であるが、緊急時には職員が同伴することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の協力を得て、相談しやすく、適切な環境の提供を行えるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネを中心に地域医療相談員と協力関係を築き、入退院時についての話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けたケアは協力医の判断をもとに、家族、本人と話し合い、どのようなケアを行っていくかの対策を講じている。	入居時に重度化時等の対応について説明している。看取りに際しては主治医の意見を聞いて家族に終末期の方針について説明し、「終末期の対応についての承諾書」と「終末期ケアについての意向確認書」で家族の確認を得ている。この1年では1人の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてのマニュアルに従い、主治医の指示の元対処している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、研修を行った。 地域と連携し行う予定だったが、コロナ禍のため行えず。	年2回防災訓練を実施し、その中で夜間想定訓練を行っている。訓練終了後に研修も実施している。法人作成の防災マニュアルを当事業所に合わせて改定し、使用している。非常用食糧、水、備品は1週間分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを損ねない対応を全職員心掛けています。	利用者の経歴を知り、一人ひとりに合わせた対応をすることや、ちゃん付けはやめる等、人格を尊重している。トイレや入浴について同性介助を希望する利用者には希望通りに対応し、トイレや浴室、居室入室の際にはプライバシーを確保するよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常における選択できる部分を状況に応じ、共にお願いしあうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の対応を重視し、個々それぞれの希望をくみ取りながら共同生活を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、入居者と一緒に衣類を確認しながら着替えを行っている。服を買いたいという希望がある場合可能な限り一緒に買い物に出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを把握し食事を提供している。誕生日はその人の好みの物を提供している。	3食とも職員の手作りで、食事系の職員が各月の2週間前に1ヶ月分のメニューを決定している。誕生日には事前に好みを聞いてメニューに加えたり、外食に出かけることもある。加えて職員手作りのケーキも楽しんでいる。食器洗いができる利用者が各フロアに1人ずついる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が不足しがちな人にはイオンゼリーを提供するなど対応している。 食事量などは個々の状態を把握し配膳している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の指導の元、必要な物品を用いり口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努めトイレでの排泄が出来る様職員間で話し合い実践している。	「ミニデイリー表」に記載した排泄記録を見てパターンを把握し、自立で行ける人や手引き歩行の人、そして車椅子の利用者それぞれについて、声掛けしてトイレに行っている。尿の色や量、便秘の有無について注意して、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医の指導の元自力排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間の固定をしてしまっているが、個々の都合や気分に合わせて変更もしている。	予定表を作成し各利用者は週2回ずつ、原則午前中に入浴している。利用者の体調や意向に留意し、入浴日を変えたり、時刻を変更することもある。入浴時の体調変化に注意し、血圧計測や水分補給、皮膚の保湿や入浴後の爪切り等を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を定めず個々の就寝したい時間に臥床して頂いている。眠れない訴えがある方は眠剤を使用している。日中も横になりたいと訴えある場合は可能な限り臥床して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更された際は職員が周知できる様に名前効果副作用などをわかりやすく申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯作業や花壇の整理、食器洗いなど入居者様といっしょにさぎょうできることを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、数回ドライブに行けたのみ。	月1回程度、梅見、花見、動物園、紅葉狩り等のドライブに出かけている。事業所周圍を毎日散歩していたが、コロナ禍以降はドライブを2ヶ月に1回に減らし、車外には出ずに戻っている。散歩はせず、中庭で庭いじりや草取り、日光浴をして過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する機会が無く、お金を使用する事がなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合、職員対応の元ご家族と電話をする機会を設けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各行事、季節に沿った飾付などを行い季節の変化を感じるよう努めています。	居間には正月飾りや節分、雛祭りや七夕、クリスマス等季節の飾りつけをして、季節の移り変りを利用者に感じてもらっている。空調機の温度調節と加湿器の湿度調節を細かく行い、心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士でお話したり、軽作業を行ったりなど、施設内を自由に移動できる様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を用意することで、居室内を自分の空間にできるようにしています。	エアコン、タンスまたは押入れが据え付けである。洋室だけでなく畳付きの和洋室や和室もあり、一部の部屋には室内トイレも用意されている。テレビ、ラジオ、ソファ、冷蔵庫、本棚、時計、家族の写真等、好みのものが置かれている。窓の開閉を細かく行い、換気に注意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人らしさを尊重するケアを実施し、本人の残存能力を活用できるよ自分で出来る事は自分で行えるよう支援しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200852		
法人名	株式会社ライフサポート		
事業所名	ライフサポート鎌田		
所在地	静岡県静岡市駿河区鎌田121-1		
自己評価作成日	令和3年 1 月 5 日	評価結果市町村受理日	令和3年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和3年 3 月 1 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

株式会社ライフサポート全体の特徴として、静岡の市街地、住宅地に施設を建てています。その目的として、入居者家族が通いやすく、気軽に立ち寄れる施設づくりを目指しています。馴染みのある街並みの中にある環境整備の中で、緑を促進し、畑を用意することで、花や自家製の野菜を作る楽しみと、食べる楽しみの両方を目指しています。市街地にあるため、気軽にお出掛けできる様にしたり、広いスペースを活かしたレクリエーションを積極的に促進していきます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、職員室に理念を張り出し、また、新人研修時に研修を行う事で理念を共有し実践につなげられるようになった。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により昨年度は外部との接触はほぼ皆無でした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響により昨年度は地域貢献できる活動は行えず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により昨年度は運営推進会議を1回しか行えず、その後は書面のみの報告の為、これといったサービス向上に関わる事はない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナに関わる事を市の担当者と連絡を取り合い対応したが、例年のように直接会っての協力関係を築くことができなかった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関するマニュアルを作成し、職員の拘束に関する知識の向上に努めている。 3か月に1回の拘束適正委員会や研修なども行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で研修会を時折行い、会議時などに話し合い虐待防止に関する知識の向上、防止について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はいないが権利擁護センターや成年後見制度を活用していた入居者がいた為、会議時などに話し合い学ぶ機会を設けたが、新規の職員はまだ学ぶ機会が無い状態である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、内容について詳細に説明し契約を行っている。 署名時には趣旨を理解していることを確認してから行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で家族が施設に来ることが少なく、例年に比べて家族から意見が出る事が少なかった。 要望に合ったオンライン面会は早急に開始することができた。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時などに意見提案がある場合協議し、反映していくようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の介護度によって勤務時間の構成見直しを行った。給与水準の見直しを会社全体で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を会社で行い、外部研修にも参加できる様働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年は地域事業所が集まり意見交換を行っていたが、昨年度はコロナの影響で行えず。オンラインで行う事を検討したが昨年は対応できなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時に当施設上での要望やふあんなどについて話を聞き、安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅ケアで出来ていたこと、できていないこと、やりたかったこと等色んなニーズを当施設の限られたハード内で可能な部分を取り入れるようにし、ご家族に安心を提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自宅で活用していた介護器具を施設内でも使用したいという要望に対応する為、福祉器具業者と契約し利用できる体制を整えた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話のできる入居者には会話をする機会をつくり、うまく会話できない入居者には表情や仕草などで関係性を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響により面会に制限、中止などをした為、直接的な接触を持ってない事が多かったが、オンライン面会などを取り入れる事で対応を行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で外部への外出はほぼできず。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく過ごせるよう、席替えなどを行い孤立しないよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事者が契約終了後も、親戚や近隣の方で相談されることも見られた。 以前入居されていた方が再度入居したいという話も出た。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者にあったケアが出来る様、職員で話し合ったり本人からの訴えを傾聴し、思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などの資料の把握、インテーク時にはわからなかった部分も入居後に本人や家族に確認していく事を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調変化、身体状況について朝の申し送りで確認し、無理のないケアを務めている。また、日中の過ごし方など会議時に話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に関係者と話し合い介護計画を作成している。朝の申し送り時などにケアカンファを行い現状の把握と対策を考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に気づきや変化などを随時記録しており、職員間で情報共有できるようなノートを活用している。 記録から介護計画の見直しの骨組みを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多様化が進み、どのようなサービスの提供が望ましいか把握できていない部分がある。 その時々生まれるニーズに対応できる様調べながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で地域活動がなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が事業所の協力医をかかりつけ医としている為、健康状態について相談しやすい環境にある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の協力を得て、相談しやすく、適切な環境の提供を行えるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネを中心に地域医療相談員と協力関係を築き、入退院時についての話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けたケアは協力医の判断をもとに、家族、本人と話し合い、どのようなケアを行っていくかの対策を講じている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてのマニュアルに従い、主治医の指示の元対処している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、研修を行った。 地域と連携し行う予定だったが、コロナ禍のため行えず。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを損ねない対応を全職員心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常における選択できる部分を状況に応じ、共にお願いしあうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の対応を重視し、個々それぞれの希望をくみ取りながら共同生活を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、入居者と一緒に衣類を確認しながら着替えを行っている。服を買いたいという希望がある場合可能な限り一緒に買い物に出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを把握し食事を提供している。誕生日はその人の好みの物を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が不足しがちな人にはイオンゼリーを提供するなど対応している。 食事量などは個々の状態を把握し配膳している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の指導の元、必要な物品を用いり口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努めトイレでの排泄が出来る様職員間で話し合い実践している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医の指導の元自力排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間の固定をしてしまっているが、個々の都合や気分に合わせて変更している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を定めず個々の就寝したい時間に臥床して頂いている。眠れない訴えがある方は眠剤を使用している。日中も横になりたいと訴えある場合は可能な限り臥床して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更された際は職員が周知できる様に名前効果副作用などをわかりやすく申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯作業や花壇の整理、食器洗いなど入居者様といっしょにさぎょうできることを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、数回ドライブに行けたのみ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する機会が無く、お金を使用する事がなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合、職員対応の元ご家族と電話をする機会を設けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各行事、季節に沿った飾付などを行い季節の変化を感じるよう努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士でお話したり、軽作業を行ったりなど、施設内を自由に移動できる様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を用意することで、居室内を自分の空間にできるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人らしさを尊重するケアを実施し、本人の残存能力を活用できるよ自分で出来る事は自分で行えるよう支援しています。		